

# 第 4 回 学生震災意識調査報告

創価学会 東北学生部

# 調査概要

- ◆調査手法：対面・留置式
- ◆調査期間：2015年1月1日～  
2015年2月15日
- ◆調査対象条件：東北地方及び首都圏の  
大学生、専門学校生
- ◆回収枚数：763枚(うち東北248枚)
- ◆調査主体：創価学会 学生部
- ◆調査校：174校(うち東北34校)

# 仮説

仮説1：震災から4年が経ち、学生の意識の中で、「震災」や「復興」は遠のいている。

仮説2：学生は“「復興」が思うように進んでいない”と捉えている一方、“「復興」に向けて何かしたい”と思っている。

仮説3：震災が学生に及ぼした影響（就業観、向学観の変化等）は、本人が意識・無意識に関わらず現在も少なからず残っている。

# アンケート質問用紙

## 第4回「学生震災意識調査アンケート」

東日本大震災から約4年。未曾有の大震災と向き合っている東北の学生が今、何を考え、次代へ何を残していけるのか。皆さんの率直な声をお寄せ下さい。

### はじめに

- ✓ 年齢・性別 \_\_\_\_\_ 歳 男性/女性  
✓ 学校・学部（専攻）・学年 \_\_\_\_\_  
✓ 出身地（市町村まで） \_\_\_\_\_  
✓ 現住所（市町村まで） \_\_\_\_\_  
✓ 「3・11」の時にいた場所（市町村まで） \_\_\_\_\_

### 〈被災地の今と風化〉

Q1) あなたは日々の生活の中で、「東日本大震災」を意識することはありますか？

下記の選択肢から最も近い項目を1つ選んで下さい。

- (ア) よくある (イ) 時々ある (ウ) ほとんどない (エ) 全くない

Q2) Q1) で (ア)・(イ) と回答された方に質問です。意識するのはどんな時ですか？

下記の選択肢の中からあてはまる項目を選んで下さい。(複数回答可)

- (ア) 新聞・テレビ・インターネット等のメディアを見て  
(イ) 家族や友人との話を通じて  
(ウ) 被災地の状況を見て  
(エ) NPO活動やボランティアに参加して  
(オ) 学校での授業、研究を通じて  
(カ) その他 ( )

Q3) 震災を経験し、①大学(学校)に行く目的、②将来の職業(就職)に対する考え方の変遷についてお伺い致します。下記の中で、震災前と震災後(概ね発災直後～1年後)、そして現在、それぞれについて、あなたが該当する項目に○を付けてください。(複数回答可)

#### 【①大学(学校)に行く目的】

震災前	震災後	現在	項目
			(ア) 社会の役に立つため
			(イ) より条件に合う職に就くため
			(ウ) 専門知識を学ぶため
			(エ) 人間関係を広げるため
			(オ) やりたいことを探すため
			(カ) 自己成長のため
			(キ) 遊び・趣味のため
			(ク) 分からない
			(ケ) その他 ( )

#### 【②職業を選択する際の基準】

震災前	震災後	現在	項目
			(ア) 人のため
			(イ) 生活の安定のため
			(ウ) 収入のため
			(エ) 社会貢献のため
			(オ) やりがいのため
			(カ) 自己成長のため
			(キ) 遊び・趣味のため
			(ク) 分からない
			(ケ) その他 ( )

### 〈復興に向けて〉

Q4) あなたは「復興の進捗」についてどう思いますか？

下記の選択肢から最も近い項目を1つ選んで下さい。

- (ア) 全く復興していない (エ) 6割くらい復興した  
(イ) 2割くらい復興した (オ) 8割くらい復興した  
(ウ) 4割くらい復興した (カ) 既に復興した

Q5) あなたはQ4)の問に対し、「復興の進捗」の軸として何をイメージしましたか？

下記の選択肢の中からあてはまる項目を選んで下さい。(複数回答可)

- (ア) 橋や道路、建物などのハード面  
(イ) 企業、商店街、職などの雇用・経済面  
(ウ) 住居等、被災された方の生活面  
(エ) 自治会、近所付き合い等のコミュニティ面  
(オ) 被災された方の心の癒え  
(カ) 3.11を教訓とした防災に関する教育面  
(キ) 漠然とした感覚、復興している感  
(ク) その他 ( )

Q6) 今後、復興を推し進めるために、必要な力(ちから)は何だと思いますか？下記の中からあなたの考えに近いものを3つ選んでください。

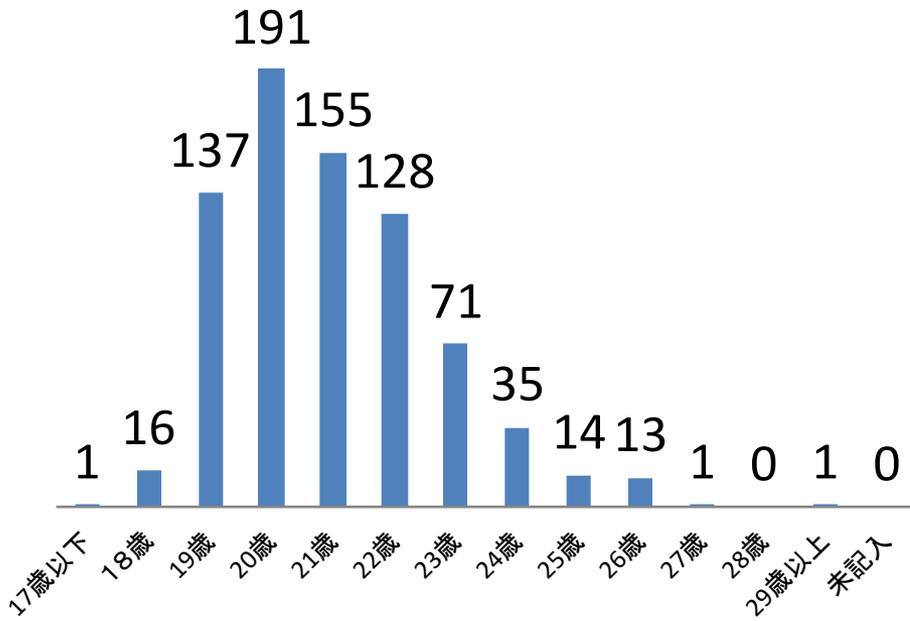
- (ア) 政治、政治家のリーダーシップ (キ) 学問、科学の力  
(イ) 国の経済力 (ク) 教育  
(ウ) 国民一人ひとりの気概・意欲 (ケ) 文化、芸術、スポーツ  
(エ) 日本全体の連帯 (コ) メディア  
(オ) 国民の知恵、創意工夫 (サ) 福祉  
(カ) 議論の場 (シ) その他 ( )

Q7) 復興のために、学生としてできることは何だと思いますか？

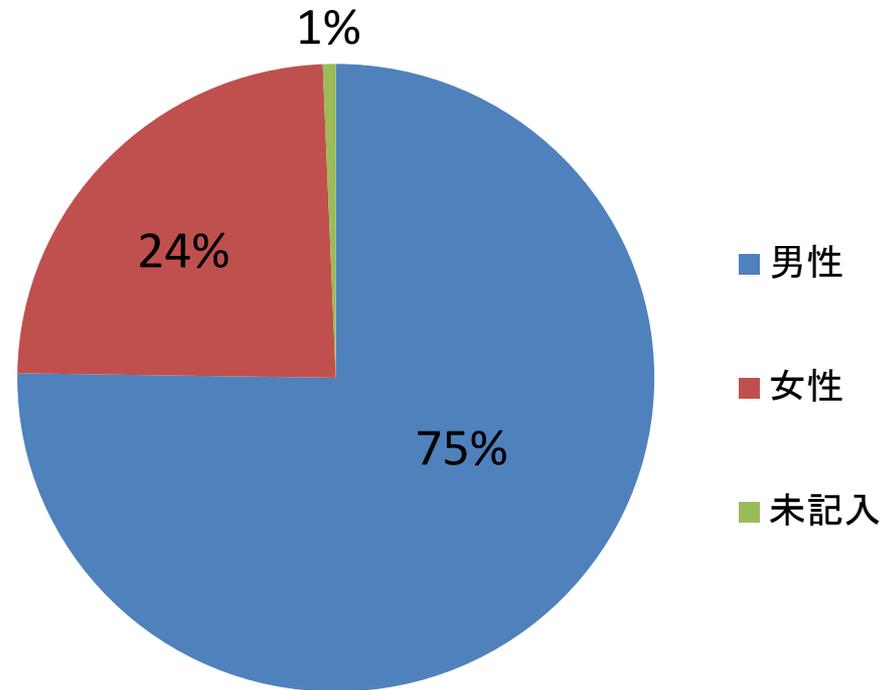
ご協力、大変に有り難うございました。今後、ご回答いただいた内容につきましては、集計・分析した結果をプレスリリース等を通じて発信してまいります。

# 回答者情報

## 年齡別回答者分布



## 年齢別回答者分布

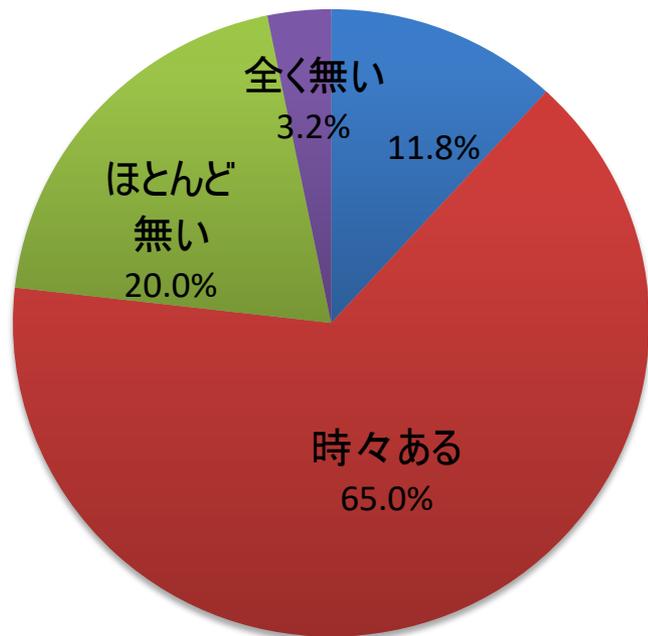


## 【被災地の今と風化】

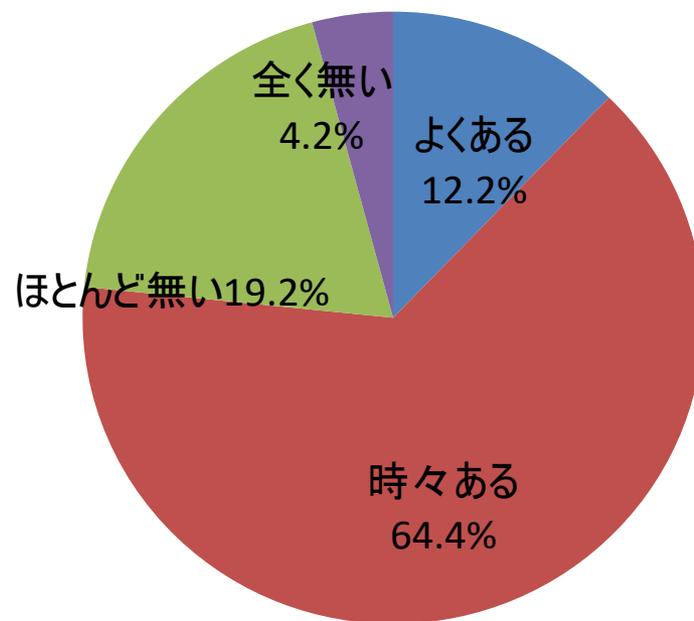
Q1) 日々の生活の中で、「東日本大震災」を意識するか？

第3回のアンケートの際と、ほぼ同一の結果が得られた。この結果だけを見る限り、少なくともここ一年で、学生の意識の中で「震災」や「復興」が遠のいたとは言い難い。

### 全学生比較



第3回(2014年2月時点)

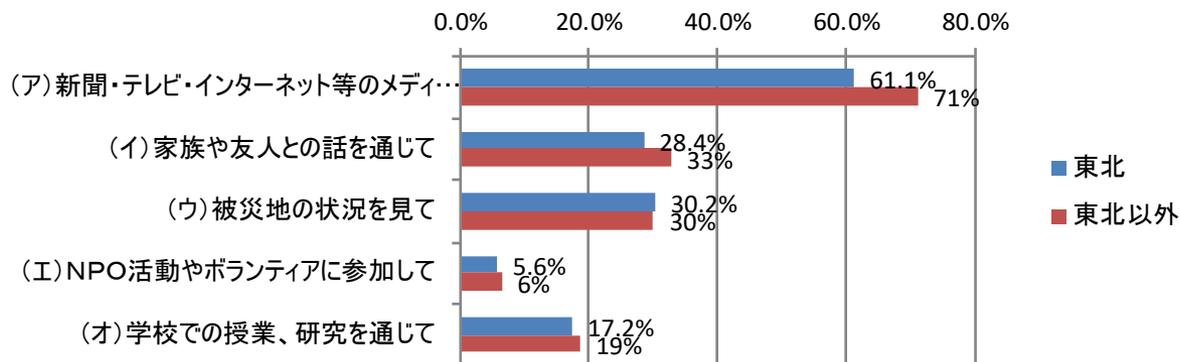


第4回(2015年2月時点)

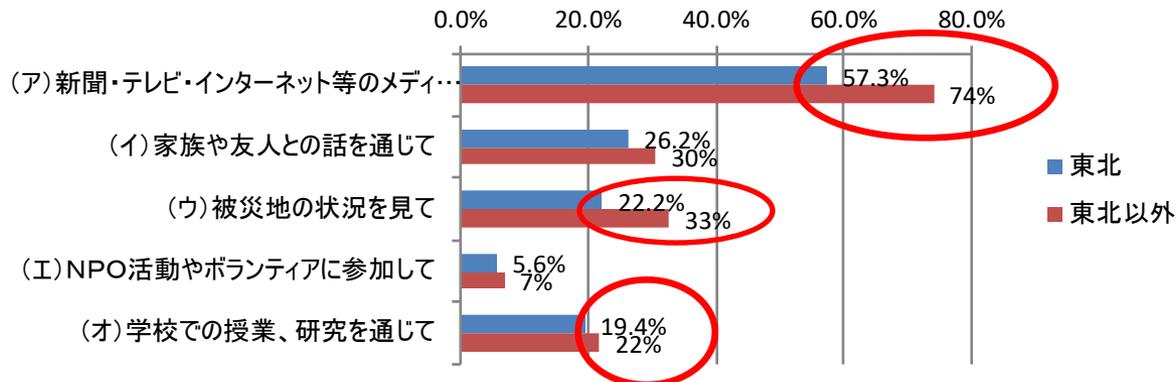
## 【被災地の今と風化】

### Q2)「東日本大震災」を意識するのはどんなときか？

前回に引き続き、メディアの影響の大きさは、際立っている。また、東北の学生が「被災地の状況を見て(意識する)」の割合が減っており、逆に「学校の授業等を通じて」が増えている。時と共に、被災地を訪れる機会は減っても、震災について意識する機会は失われていない事が伺える。



第3回(2014年2月時点)



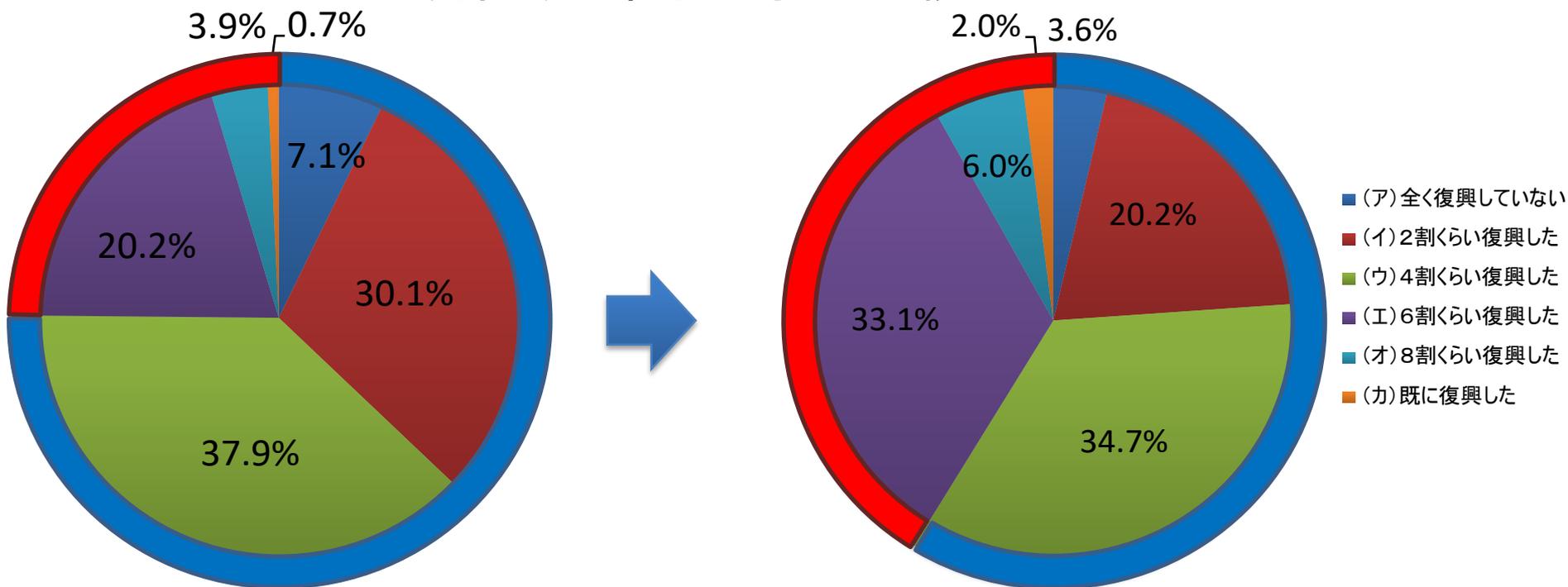
第4回(2015年2月時点)

## 【復興に向けて】

Q4) あなたは「復興の進捗」についてどう思いますか

現住所・東北に限ると「2割復興」の割合が減り、「6割復興」の割合が増えている。学生の中で、「復興感」は高まってきているようだが、全体としてはまだまだ道半ばとの意識であることが分かる。

### 現住所・東北の学生比較



第3回(2014年2月時点)

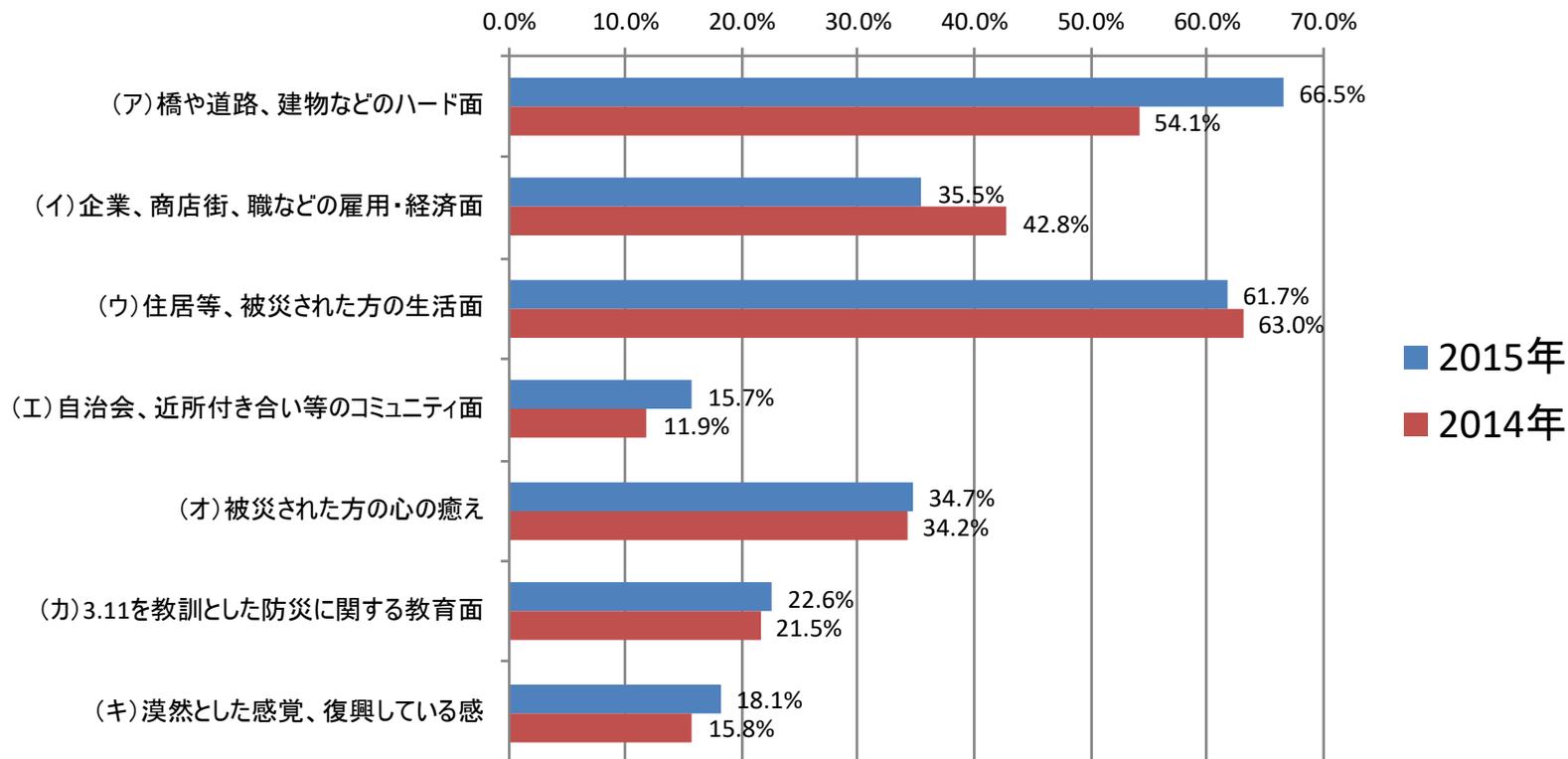
第4回(2015年2月時点)

## 【復興に向けて】

### Q5)「復興の進捗」の軸として何をイメージするか？

現住所・東北の「復興感」が、「橋や道路、住居等のハード面の復興」にシフトしていることが伺える。一概には言えないが、「雇用・経済面の復興」に関しては、割合が減っている事から、“復興が進んでいない”と考える学生が多い事が考えられる。

### 現住所・東北の学生比較

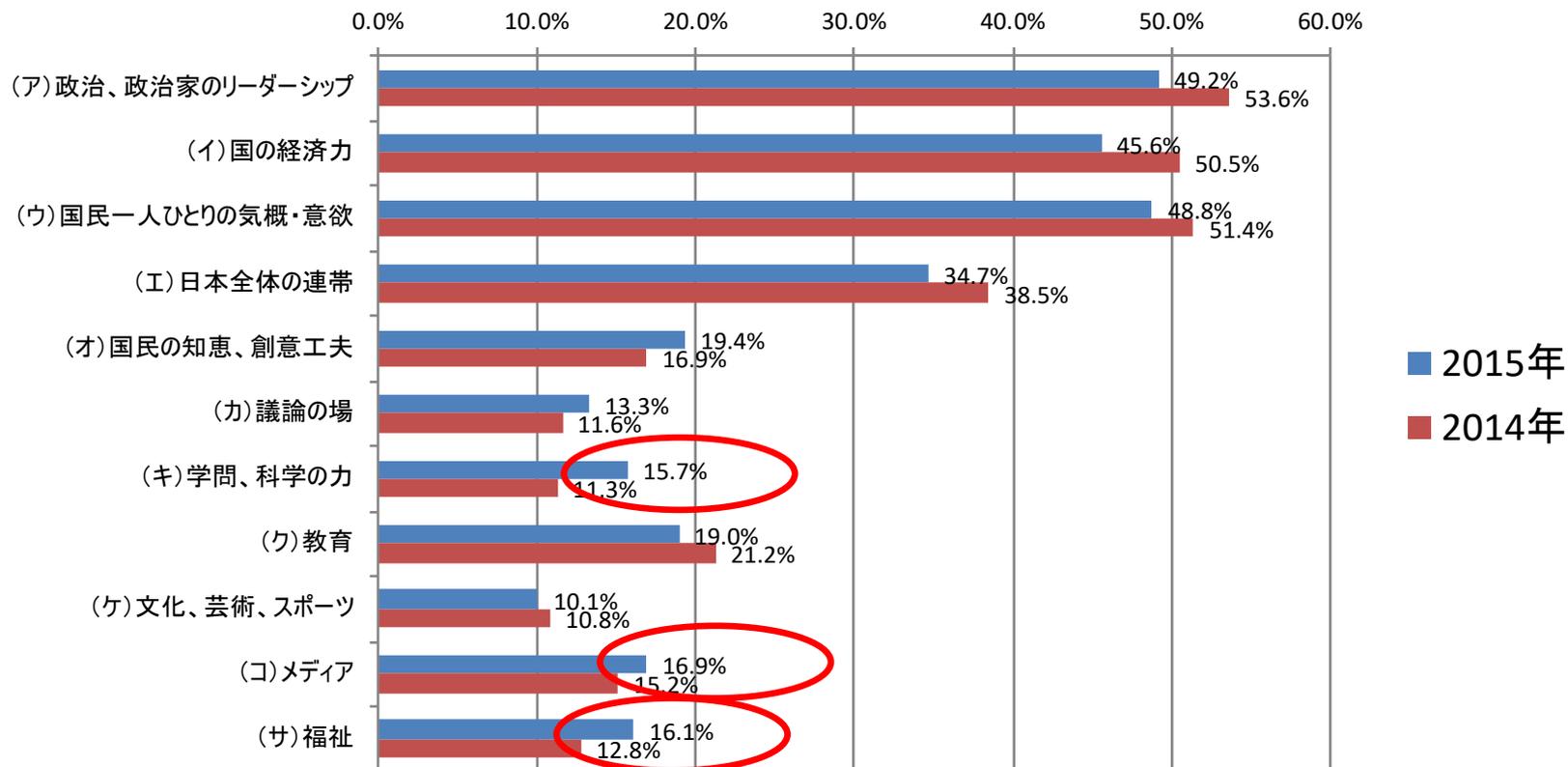


## 【復興に向けて】

### Q6) 復興を推し進めるために必要な力とは何か？

前回同様、「政治家のリーダーシップ」や「国の経済力」への期待が大きい半面、「学問、科学の力」や「メディア」「福祉」などを選んだ学生も増えてきていることから、復興が新たな局面に入っている事が伺える。

### 現住所・東北の学生比較

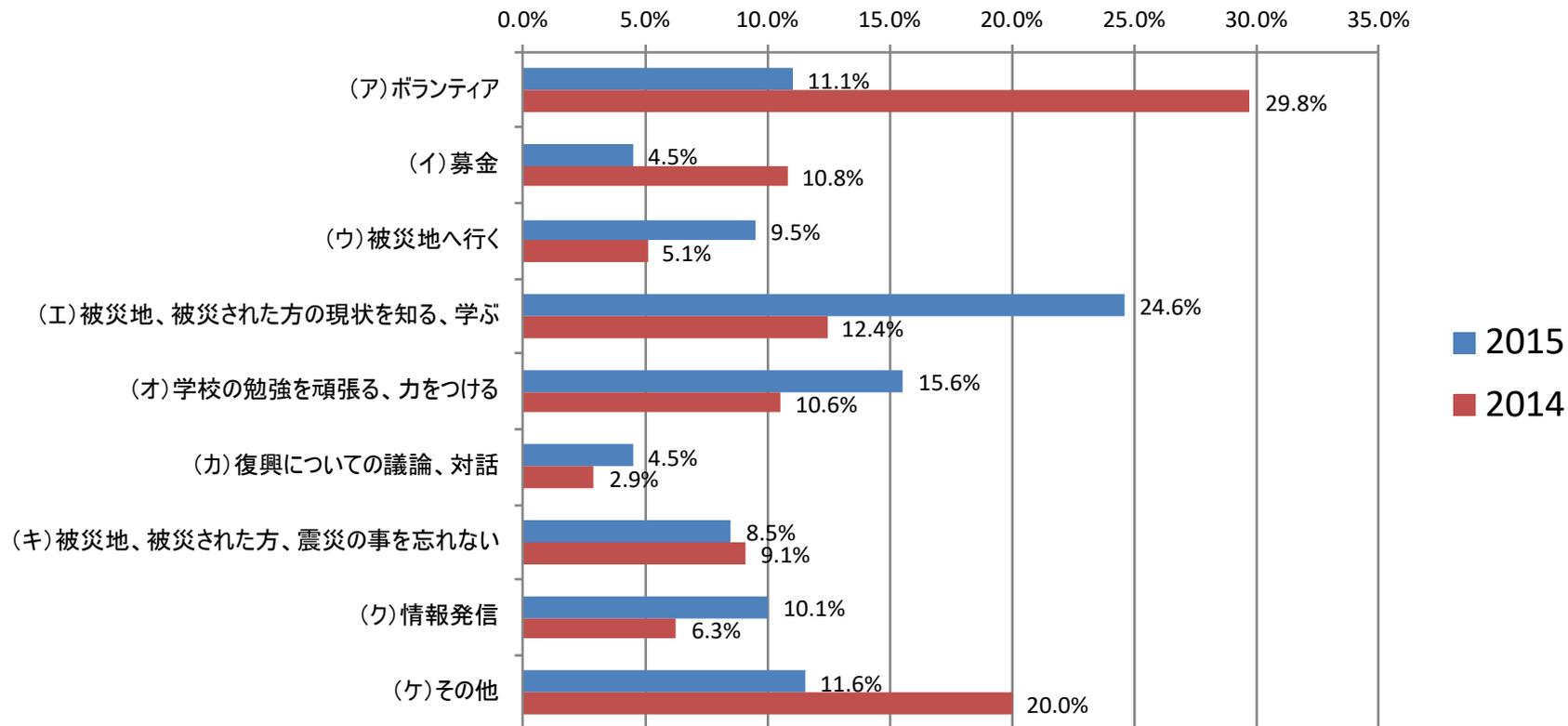


## 【復興に向けて】

### Q7) 復興のために、学生として出来ることは何か？

「ボランティア」「募金」での貢献の割合は減ったが、「被災地の現状を知る」「学校の勉強を頑張る」の割合は増えた。何かしら、被災地、復興に関わりを持つようとする学生の思いが感じられる。

### 全学生比較

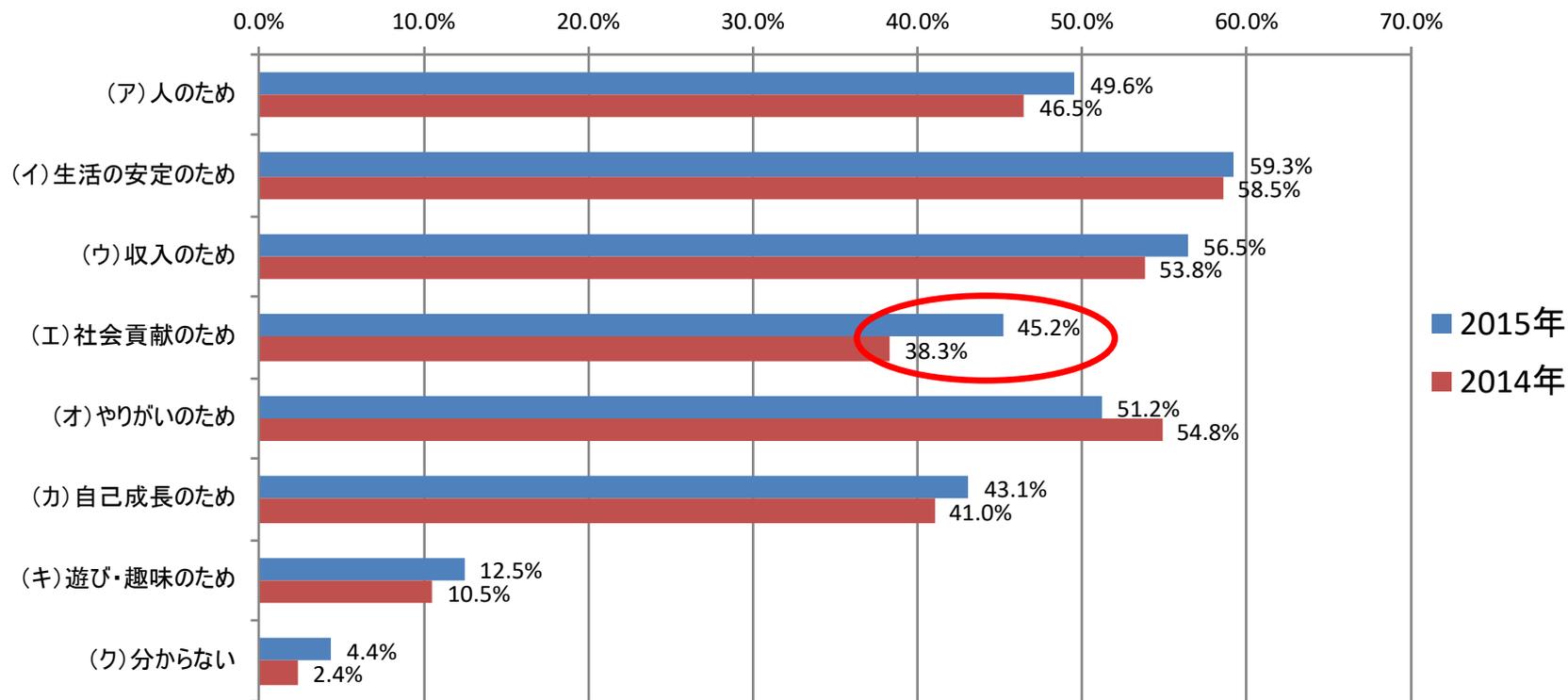


# 【被災地の今と風化】

## Q3) 震災前後での就業観の変化について

第1回～第3回までの調査で、震災を機に「人のため」「社会のため」との価値観を重視する傾向が増していることが分かった。その影響は4年経った現在も生きており、学生達を取り巻く環境・社会に確実に浸透しているようだ。

### 現住所・東北の学生比較



# 結 論

Q1、Q2より

①震災三年目までは、薄れていく傾向にあった学生の意識も、少なくともここ一年間では、必ずしも薄れているとは言えない。

→復興が進み、被災地に実際に足を運ぶ機会は減っても、メディアや友人との対話、学校の授業・研究などで、震災を意識する機会はむしろ広まっている様である。

Q4～Q7より

②学生は「復興は道半ばではあるが、着実に進んでいる」と感じている。

→また、「ボランティア」「募金」は減っても、“被災地、復興に関わりを持ちたい”と考えている。

Q3より

③震災が及ぼした影響、すなわち「人のため」「社会のために」との価値観は、学生達、または学生達を取り巻く環境・社会に確実に浸透している。